

経営比較分析表（平成30年度決算）

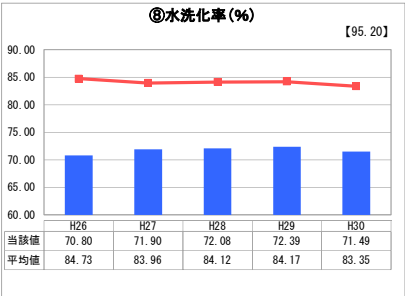
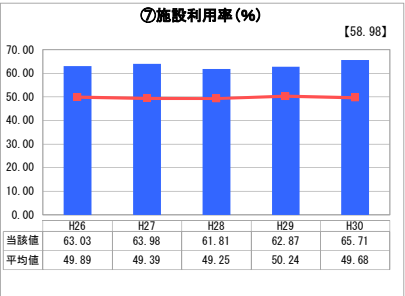
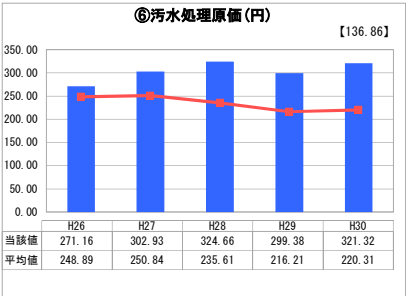
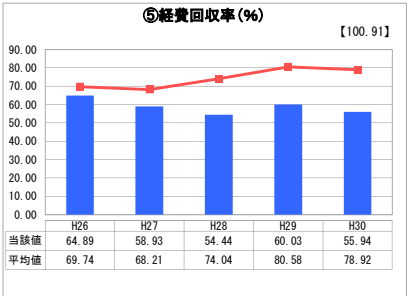
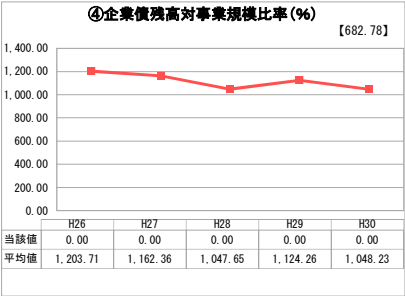
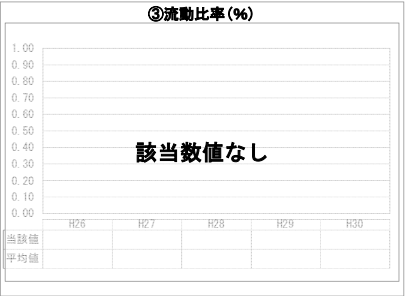
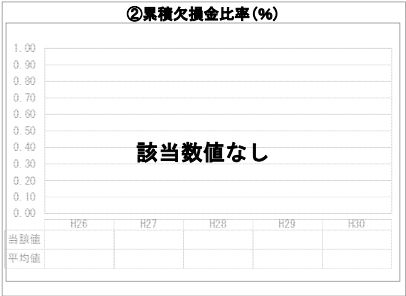
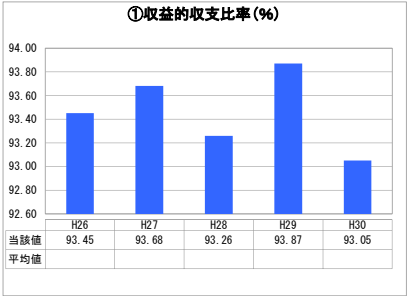
北海道 長万部町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Od2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	75.18	53.74	3,240

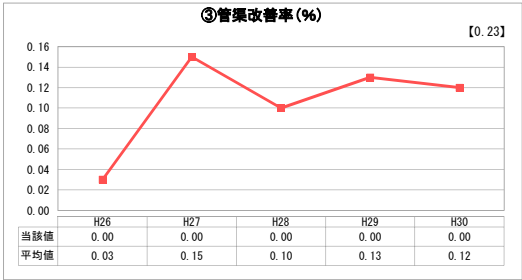
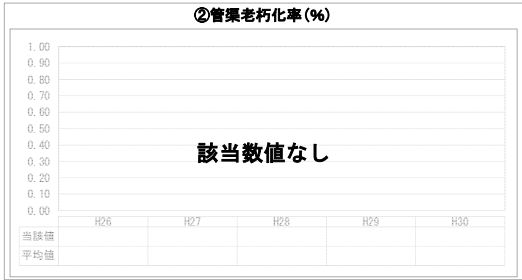
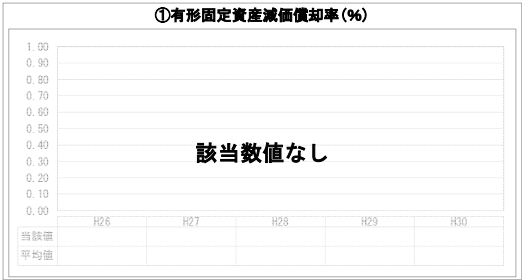
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,493	310.76	17.68
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,971	2.70	1,470.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率：100%未満ではあるが、93%以上で推移しており、大きな変動はない。

⑤経費回収率：平成25年度からは類似団体平均値を下回っている。このため経費の削減を図る必要がある。

⑥汚水処理原価：平成25年度からは類似団体平均値を上回っている。この原因は、汚水処理費の増加や有収水量の減少にあると考える。これらを解決させるために、費用削減と接続率の向上に努める必要がある。

⑦施設利用率：類似団体平均値を上回っており、施設が有効に利用されていると考える。

⑧水洗化率：水洗便所設置済み人口および処理区域内人口ともに減少しており、横ばい状態となっている。

2. 老朽化の状況について

供用開始後25年以上を経過しているが、管渠については耐用年数を経過していないため、老朽化は進んでいない。しかし、今後は徐々に老朽化が進んでいくため、計画的な更新を検討する必要がある。

全体総括

現状は、使用料金のほかに一般会計からの繰入金による事業運営がなされている。また、今後は人口減少に伴い、使用料金収入が減少し、経費回収が難しくなるものと予想する。
以上を考慮しつつ、より健全な経営を行うためにも、経費の節減、効率的な設備更新に努めるものとする。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。